

令和4年8月5日

芦屋市議会議長 松木 義昭 様

建設公営企業常任委員長 川島 あゆみ

建設公営企業常任委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

記

- 1 日 程 令和4年7月28日（木）～7月29日（金）
- 2 視察先及び
視 察 項 目 立地適正化計画について（長崎県大村市）
立地適正化計画について（長崎県長崎市）
- 3 参 加 者 建設公営企業常任委員会
委 員 長 川島 あゆみ
副委員長 米田 哲也
委 員 長谷 基弘、福井 美奈子、青山 暁、徳田 直彦
随 行 市議会事務局 寺川 貴嗣、本宮 健男
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以 上

令和4年度 建設公営企業常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和4年7月28日（木曜日）13時00分 ～ 14時40分
視 察 先	長崎県大村市議会
視 察 内 容	立地適正化計画について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	大村市は、芦屋市と人口がほぼ同じであるが、人口減少が進む中においても人口増の目標を掲げている。同市は立地適正化計画を見直したばかりであり、防災面についての取り組みにも学びたいと考えたため。
調 査 概 要	<p>【大村市の概要】</p> <p>面積 126.73 km² 人口 96,264 人（世帯数 40,330 世帯）</p> <p>芦屋市とは人口はほぼ同じだが、面積は約7倍である。また、人口推移は右肩上がりであり、長崎県内13市で唯一人口が増加している。一つの自治体の中に空港、高速道路IC、新幹線の駅が揃っており、ボートレース事業が市の歳入に大きく関わっていることが特徴である。</p> <p>【立地適正化計画について】</p> <p>◆平成29年3月に策定された「大村市立地適正化計画」は、市内で県立・市立一体型図書館や市民病院といった大型施設の建て替え計画があり、国費の補助率を高めるために計画の策定をスタートさせたという経緯があった。</p> <p>◆通常、立地適正化計画を策定する背景には、人口減少などが挙げられるが、大村市は、長崎市にも佐世保市にも近いなど、交通アクセスの良さという（長崎空港、高速道路IC、西九州新幹線）利便性・優位性があり、さらに北部地域では比較的安価で取得できる住宅用地となる未利用地が多いことから、人口は今後も増加するという予測を立てている。</p> <p>◆立地適正化計画の中では、都市拠点を大村駅前エリア、新大村駅前エリア、市民病院周辺エリアの3つに位置付けており（陸上自衛隊の基地が市の中心部にあるため、迂回しなければならない状況にあると思われる）、それぞれを幹線バス等をつなぐ計画となっている。</p> <p>◆大村市は車社会であることから、市内の公共交通（路線バス）の維持が課題である。コンパクトなまちづくりに向けて、免許を返納した高齢者など、交通弱者の足となる路線バスネットワーク作りは大きな課題である。</p> <p>◆西九州新幹線の新駅である新大村駅前には、具体的に商業施設や集合住宅の建設が予定されている。また、現在の市役所や公民館は駅から離れた位置にあるが、特に市役所については老朽化していたため、市民病院周辺に移転・建て替えが決定し、具体的な計画は未定である。</p> <p>◆令和4年の計画見直しでは、新たに「防災指針」が位置づけられているが、浸水等が想定される海沿いのエリアにも住宅が建ち並んでいるのが現状である。</p>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	大村市には交通アクセスの利便性・優位性があり、さらに北部地域では住宅地開発が進むことから、人口は芦屋市と同程度でありながら、社会増がまだまだ見込まれる計画となっていることが分かった。一方で、芦屋市には比較的安価で購入できる土地は少ないが、南芦屋浜では宅地分譲が続いており、またオールドニュータウンである芦屋浜には

	<p>UR や公社の賃貸物件が豊富であるため、行政の取り組み方によっては、若年層の呼び込みができるのではないかと思われる。何より、大阪・神戸へのアクセスが良く、自治体としてのポテンシャルはある。JR 芦屋駅南地区の駅前再開発が決まり、新しいことが進んでいく一方で、自治体として今ある「財産（＝強み）」を見直し、積極的に活かすまちづくりを求めている。</p>
--	--

令和4年度 建設公営企業常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和4年7月29日（金曜日） 10時00分 ～ 11時30分
視 察 先	長崎県長崎市議会
視 察 内 容	立地適正化計画について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	芦屋市と同様に市内の大部分が斜面地であることから、本計画によって山手から市中心部へ居住地を誘導する取り組みに、学ぶべき点が多いのではないかと考えたため。
調 査 概 要	<p>【長崎市の概要】 面積 405.86 km² 人口 403,628 人（世帯数 205,350 世帯） 造船・機械工業、水産業が盛んな都市である。また観光地としても賑わっている。</p> <p>【立地適正化計画について】</p> <p>◆長崎市の立地適正化計画では、これまでの人口増加によって市街地が拡大していくという考えから、人口減少・少子高齢化によって、中心市街地の衰退（店舗数及び人通りの減）や既存の公共交通網（バス・路面電車）の維持が困難になるであろうと予測し、さらに、今後の公共施設の維持更新費もかさむため、コンパクトなまちづくりは必須であると考えている。</p> <p>◆市内の斜面地はイエロー・レッドゾーンに指定されている部分が3割にも上り、近年も平成28年にゲリラ豪雨によって土砂災害が発生し、住居・宅地において被害が出ている。さらに、自家用車等の通行が困難な道が多数存在し、ゴミの収集が困難であることや、救急車両の侵入が難しいなど、斜面地に暮らす市民生活の課題は深刻である。</p> <p>◆行政としては、住居を平坦地に誘導（※1）したいが、慣れ親しんだ場所に住み続けたいという市民が多く、現実的には誘導がなかなか困難であることから、斜面地においても少しでも安心・安全が確保できるような制度（※2）を準備しているほか、斜面移送機器（リフト）の設置など、移動手段について新たな工夫をしている。</p> <p>※1「居住誘導区域」 斜面地から平坦地へ誘導するために、市街地の容積率緩和などを行っている。また、斜面地であっても、住民が現在の住まい方を受け入れる区域を「自然共生区域」と位置付けている。</p> <p>※2「車道（くるまみち）整備事業」 建築基準法上必要な幅員4mが確保できなくても、車の通行ができれば市として道路拡幅に補助をする仕組み。 「がけ災害対策費補助金制度」 目視等で安全性に不安のある擁壁の崩壊を未然に防ぐために、改修費用を補助している。</p> <p>◆一方で、観光地としても栄える長崎市にとっての強みは、路面電車やバスといった既存の利便性の高い公共交通網が、住民はもとより観光客によっても支えられていることであり、まさに「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」というネーミングがふさわし</p>

	い。
<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>同じ斜面地のある自治体といっても、イエロー・レッドゾーン指定の多さだけを見ても、芦屋市とは比べ物にならないレベルの急斜面であった。細い階段状の道や斜面から張り出した人工地盤の設置など、住民が苦勞をしながら暮らし続けている様子がうかがえた。住み慣れた場所に暮らしたいという市民の気持ちに寄り沿って、行政が様々な工夫をしているが、立地適正化計画だけでは解決できない問題の難しさを感じた。一方で、こうした斜面地で住み続けるための工夫は、今後芦屋市でも取り入れられるものがあるのではないかと考える。また、計画の概要版では長崎市のカタチをモチーフとしたキャラクターのイラストを採用するなど、都市計画という分野でも分かりやすい広報活動が行われていたため、こうした取り組みは芦屋市でも見習うべき点だと感じた。</p>

視察の様子（令和4年度 建設公営企業常任委員会）

視 察 先 ①

7 月 2 8 日
長 崎 県 大 村 市



大村市役所を訪問しました。



大村市都市計画課の職員の方にご説明いただきました。

視 察 先 ②

7 月 2 9 日
長 崎 県 長 崎 市



長崎市役所を訪問しました。



長崎市都市計画課の職員の方にご説明いただきました。

※この「視察の様子」のページは市議会事務局職員が作成しています。